

こころ医療福祉専門学校佐世保校
平成28年度第1回教育課程編成委員会 議事録

【日時】平成28年5月29日（日）13:50～14:50

【会場】こころ医療福祉専門学校 3階 会議室

【委員】出席：井手浩二（いで整骨院）、久貝博（ひさがい鍼灸院）
廣瀬典治、舘川大輔、中村裕也、松下周平
欠席：平田篤志、諸岡辰巳

（敬称略）

1 開会の辞（司会 舘川大輔）

本会の開会目的及び配布資料の説明を行う。

2 委員の紹介（司会 舘川大輔）

各委員の紹介を行う。

3 学校長挨拶（校長 廣瀬典治）

昨年は長崎校と合同で開催したが、今年は佐世保校単独で委員会を開催することとなった。本題に入る前に、平成28年5月21日に岩永学園理事会が開催され、その中で佐世保校健康鍼灸科の平成29年度の入学生募集停止が決定した。要因として少子高齢化があるが、柔道整復科は存続して地域貢献を行っていく予定だ。また、長崎校の健康鍼灸科は存続するので、今後ともよろしく願います。

4 柔道整復科（学科長 舘川大輔）

（1）教育計画

①カリキュラムについて

・平成27年度から変更はない。

②学生について

・平成28年度から新たにトレーナー部を発足した。トレーナーになりたいと訴える学生が多く、臨床に活かせる現場実習を行うのがねらいである。学内では講習会を開き実技・触診術・テーピング技術などを学び、学外では高校の部活動・地域イベントなどにボランティアとして出向く予定だ。

③国家試験対策について

- ・ 5月上旬から月に1回行っている模擬試験の成績不良者に対し、授業終了後18時から19時半まで教員の監督のもと、補講を自習形式で行っている。質疑応答ができる環境を整えている。クラスの半分の15名程度が参加している。
- ・ 教科の見直しとして、3年生前期で通常科目を終わらせたいという思いがあり、平成28年度に関しては後期科目の「運動学」を残して、他の科目については前期の通常授業で終わらせ、国家試験対策を始める予定だ。

(2) 質疑応答

(井手) 進級要件を厳しくしたほうがよいのではないか。

(舘川) 次年度より進級要件について長崎校との統一を検討している。吟味して適切な時期に留年させることで、学生の意識付けや、学力向上、業界のレベル上げを行っていく。

(井手) 現実的な治療法や診断技術を入れたほうがよいのではないか。

(舘川) 通常授業でも臨床実習でも使えるような内容を含みながら行っているが、臨床に偏りすぎると国家試験の教科から外れてしまうところもあるので、バランスを図りながら取組、また、トレーナー部で臨床実習に活かせる指導を行っていく。

(井手) 舘川学科長のみが放課後に指導を行うのは大変ではないか。担当教員を決め、分野別に教えていくほうがよいのではないか。

(舘川) 舘川1人ではなく、曜日で担当分野ごとに教員がそれぞれ指導するため問題はない。佐世保校は教員が多くないため、毎日行うことは難しく週3回程度、できる教科・範囲で行っている。

(井手) 学んでインプットする時間が必要ではないか。家に帰っても勉強しない。私が学生のころは授業前に自習をしていたが、佐世保校には自習する場所が少ないのが残念である。また、図書室には専門書が少ない。長崎校は充実しているのに残念。生徒たちは長崎校のほうが環境はいいのではとってしまう。

(舘川) 使用していない教室を自習できるように開放しているが、長崎校と比べると劣ってしまう。自習をどう促すか、勉強に向かう姿勢があれば自習はできるので、ハード面に関しては検討させていただきたい。

(廣瀬) 学習室は使用していないのか。

(中村) 学習室は開放している。しかし、3年生になると自教室を朝から夜まで解放しており、授業がない時間は自教室で自習することは可能だ。

(井手) 最終的には学生の意欲になる。どんなに教員が頑張っていたとしても意欲がない学生は何をしても響かない。2年生になり模試が始まる頃に焦っている姿をよく見ていた。学生は学校が出す合格率を鵜呑みにしている。授業さえ聞いて

いれば受かるだろうと思っている学生が多い。1年次から勉強をしないと合格できないことを伝えたほうがよい。

(舘川) 通常授業の中でもしっかりと伝えていく。

5 健康鍼灸科 (学科長 中村裕也)

(1) 教育計画

①学生募集について

- ・平成29年度から健康鍼灸科は学生募集を停止することとなった。

②カリキュラムについて

- ・学生に考えさせる内容の授業が必要との意見について、学科で協議した。一方的に伝える授業ではなく、学生自身で何かを作り上げていくような授業の取り組みを行う。
- ・カリキュラム上、まずはインプットを行わせ、2年生後半から3年生で国家試験を目的とした内容を授業以外でも取り扱っていく。
- ・学生の学外での技術講習の推進を行う。専任教員だけでは現場の事を伝えきれない部分がある。学外のセミナーなどでの技術に興味を持ってもらいたいので、学内に掲示板を作成し学生へ知らせる。あるいは、教員自身が講習会等に参加し、感想など内容をフィードバックしていく。
- ・社会性を持たせる。技術向上の授業だけでなく、コミュニケーション能力・マナー・社会性などを授業の中で取り入れていく。
- ・教員の教育能力の向上を図る。教員間で授業の内容・実施方法を再度検討し見直していき、学生に還元できるシステムを構築する。
- ・委員の諸岡先生より、内容の充実を図るのは良いが学生の負担になりすぎないように行わなければならないと懸念された。学生がよりよく習得できる内容となるよう変更を検討する。

③国家試験対策について

- ・教員は担当以外の教科も強化する。
- ・学生の日本語読解力の低下が多くみられる。教科書を読むなどの基本的なことを1、2年生の段階でしっかりと習慣づけられるよう、深い意味での国家試験対策をする。

(2) 質疑応答

(久貝) 国家試験問題は覚えさせることが多いため、学生の負担になる。東洋療法研修試験財団から見直しが必要ではないか。学校は決められた事から授業を組んでいる。学生は試験が難しく考える時間がないのではないか。

(中村) 内容については学校側に委ねられる部分もあるので、そこは対応していきたい。

6 全体的な質疑応答

(井手) 健康鍼灸科募集停止についてだが、こんなに人気がないものなのか。就職率などが悪いのか。

(中村) 就職率などに変化はない。ただ、高校新卒での就職が多くなり、鍼灸の認知度も低く、興味を持つ学生自体が少なくなっているのが大きな要因ではないかと思われる。

(舘川) 柔道整復科は高校新卒者の入学割合が多く、健康鍼灸科はその割合が少ない。景気の影響などがあり、これという原因はない。

(井手) 健康鍼灸科が4期で終わるのは残念だ。また、柔道整復科の求人を見たが県外の求人が多かった。県外に就職している学生が多いのか。

(舘川) 県外の求人は多いが、実際に就職しているのは全体の1割程度。他は県内に就職している。

(井手) 就職率は100%なのか。

(舘川) 就職率は100%だ。

7 閉会の辞 (司会 舘川大輔)

以上で本委員会を終了する。